(財)八尾市文化財調査研究会報告121

八 尾 南 遺 跡

第30次調査

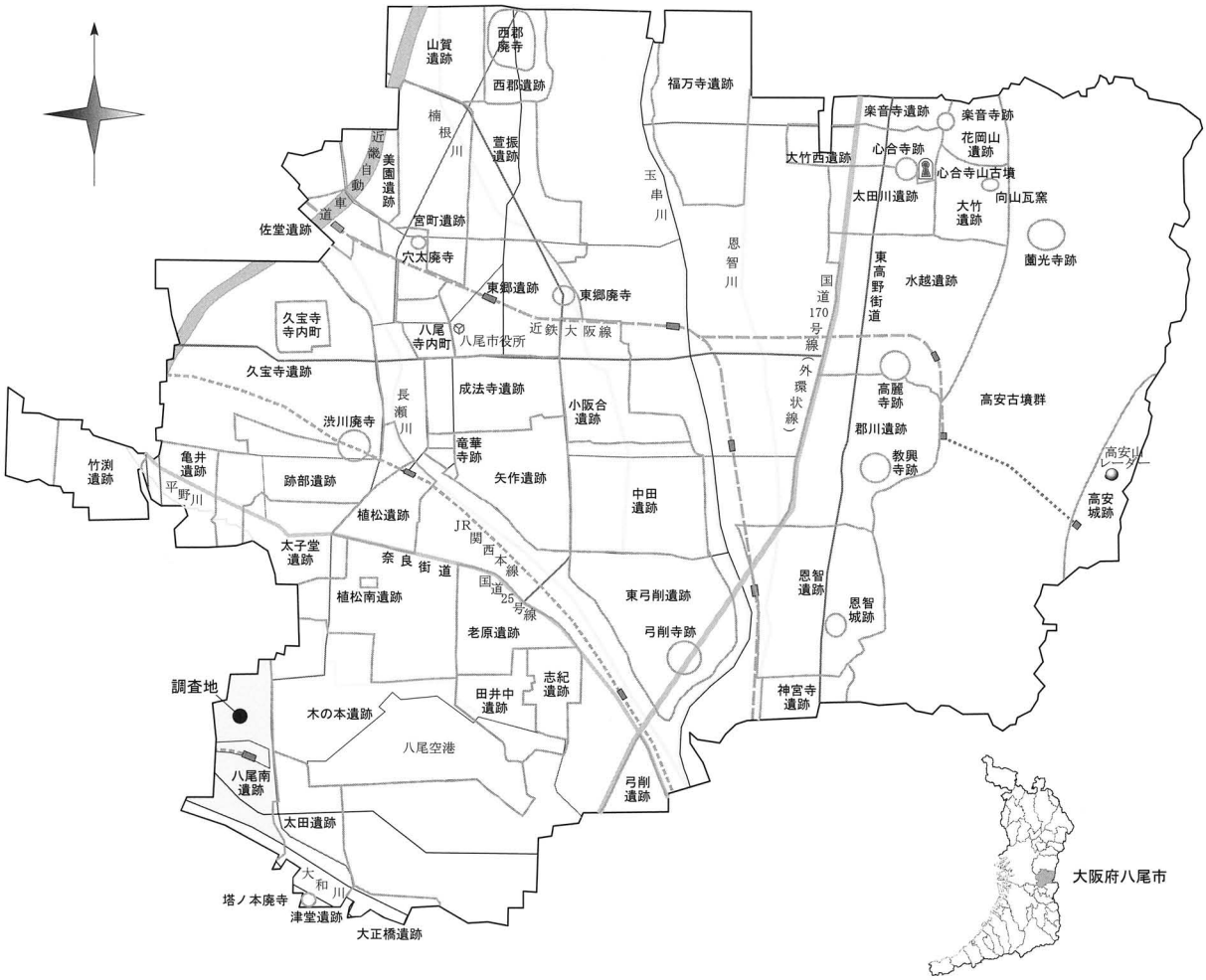
2008年

財団法人　八尾市文化財調査研究会

(財)八尾市文化財調査研究会報告121

八　尾　南　遺　跡

第30次調査



2008年

財団法人　八尾市文化財調査研究会

はしがき

八尾市は大阪府の東部、旧大和川によって運ばれた土砂によって形成された河内平野の中心部に位置しています。古くから人々の生活の場として繁栄していた地域であり、現在も地面の下には先人が残した活動の痕跡や遺物といった貴重な埋蔵文化財が数多く残されています。

近年、都市開発に伴う各種土木工事は増加の一途を辿っています。その中で消失の危機にさらされる文化遺産の記録保存を行い、調査・研究を通じて明らかになった知見を文化遺産とし、後世に伝えていくことが我々に課せられた責務と考えています。

本書は、平成20年度に実施いたしました八尾南遺跡(第30次調査)の調査成果を収録したものであります。八尾南遺跡は、古くは1万年以上昔の地層から石器が出土することで知られている遺跡です。今回の調査では古墳時代前期から現代にかけての遺構面を複数確認することができました。特に、平安時代から中世にかけての条里水田は、当耕作地における土地利用の変遷を知る上で重要な成果といえます。

本書が地域史解明はもとより、埋蔵文化財の保護・普及の一助になれば幸いです。

最後に、発掘調査の開始当初から本報告の刊行にいたるまで、数々のご尽力をいただきました関係諸機関の皆様方に心より御礼申し上げると共に、今後尚一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成20年12月

財団法人　八尾市文化財調査研究会
理事長　岩　﨑　健　二

例　　言

1　本書は、大阪府八尾市西木の本四丁目地内で実施した、市営大正住宅建替に伴う文化財発掘業務の報告書である。

1　本書で報告する八尾南遺跡第30次（ＹＳ2008-30）の発掘調査業務は、八尾市教育委員会の指示書に基づき、財団法人八尾市文化財調査研究会が八尾市から委託を受けて実施したものである。

1　現地調査は、平成20年９月８日～平成20年９月22日（実働10日間）にかけて、米井友美を調査担当者として実施した。調査面積は約101㎡である。

1　現地調査にあたった調査補助員は、飯塚直世・岩本順子・梶本潤二・芝崎和美・田島宣子・中野一博・村井俊子である。

1　内業整理および本書作成にかかる業務は、平成20年９月24日から開始し、平成20年12月26日に完了した。

1　内業整理および本書作成の作業は、遺物実測－永井律子・村井、図面トレース－米井、遺物写真撮影－木村健明、執筆及び編集－米井が担当した。

1　調査に関しては、写真・実測図等の記録とともに、カラースライドを作成している。広く活用されることを希望する。

凡　　例

1　本書掲載の地図は、大阪府八尾市発行の2,500分の１地形図（平成８年７月発行）を使用した。

1　本書で用いた標高の基準はT.P.値（東京湾標準潮位）である。

1　本書で用いた方位は国土座標第Ⅵ系（世界測地系）の座標北を示している。

1　土色については、『新版　標準土色帖』1996　農林水産省農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所色票監修を使用した。

1　本書で用いた挿図の縮尺は、各挿図内のスケールに示している。

1　遺構は下記の略号で示した。

土坑－ＳＫ　溝－ＳＤ　小穴－ＳＰ　落ち込み－ＳＯ　自然河川－ＮＲ

1　遺物実測図の断面は陶磁器・須恵器を黒、それ以外を白とした。

1　参考文献はＰ11に提示した。

本　文　目　次

はしがき
例言
凡例
第１章　はじめに……1
第２章　調査の方法と経過……4
第３章　調査概要……5
　１）基本層序……5
　２）検出遺構と出土遺物……7
第４章　まとめ……11
報告書抄録

挿　図　目　次

第１図　調査地周辺図……2
第２図　調査区位置図……4
第３図　調査区断面図……6
第４図　第１面出土遺物実測図……7
第５図　第７層出土遺物実測図……7
第６図　調査区平面図……8
第７図　第２面・第３面遺構断面……8
第８図　第４面遺構断面図……9
第９図　ＳＫ401 出土遺物実測図……10

表　目　次

第１表　周辺の調査地一覧表……3

写　真　目　次

写真１　調査地周辺(西から)……1
写真２　昭和23年米軍撮影空中写真……7
写真３　作業風景……10

図　版　目　次

図版一　調査区西壁断面南側　調査区南壁断面
調査区西壁断面北側
図版二　第１・２面全景　第５面全景
第４面全景
図版三　銃弾溜まり　畦畔301・ＳＤ301検出状況
畦畔401断面　ＳＫ401断面
ＳＤ401断面　ＳＰ403断面
ＳＰ404断面　ＳＰ405断面
図版四　ＳＯ401断面　ＳＯ402断面
ＮＲ501断面　第１面出土銃弾
第２面・第４面出土遺物

第１章　はじめに

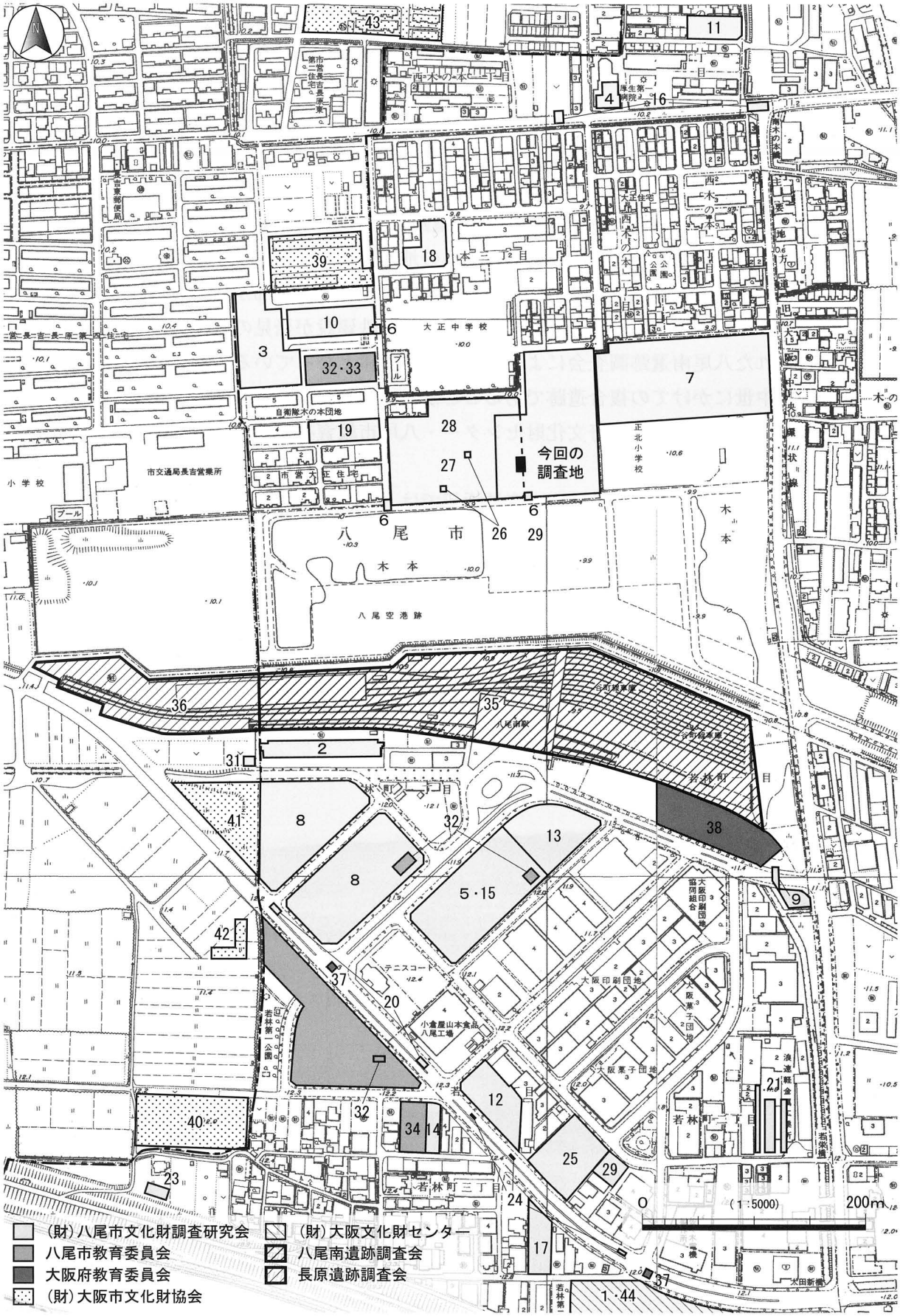
八尾南遺跡は大阪府八尾市南西部に位置している。現在の行政区画では若林町一～三丁目、西木の本一～四丁目の西部にあたり、東西約0.5km、南北約1.3kmがその範囲とされている。

地理的には旧大和川及びその支流河川による活発な沖積作用によって形成された河内平野の南西部にあたる。地質的には概ね沖積地であるが、遺跡の南には羽曳野丘陵から連なる河内台地が、西には上町台地が存在しており、低地から台地への地形変化点にもなっている。

周辺には、北東に木の本遺跡、南東に太田遺跡、市境を挟んで北部から西部にかけては長原遺跡が隣接している。当遺跡は、長原遺跡で行われた地下鉄建設が発見の契機になっており、これを受けて行われた八尾南遺跡調査会による発掘調査が端緒となっている。調査の結果、当遺跡が旧石器時代～中世にかけての複合遺跡であることが明らかとなり、その後、八尾南駅南側を中心に大阪府教育委員会・(財)大阪府文化財センター・八尾市教育委員会・当調査研究会によって継続的に発掘調査が行われている。

今回の調査地は遺跡北部にあたり、調査地近辺では、西側で行われた八尾南遺跡第26・27・28次調査と東側で行われた第７次調査で、古墳時代～近代までの水田等の遺構が検出され、平安時代以降には条里制に則って農地が利用され近代に至るまで生産域として利用されていたことが判明している。このような既往の調査から、今回の調査地では古墳時代から近世にかけての生産域に関連する遺構・遺物の存在が想定された。

写真１　調査地周辺（西から）


今回の調査地
大正中学校
八尾市
八尾空港跡
市交通局長吉営業所
自衛隊木の本団地
正北小学校
若林町一丁目
若林町二丁目
若林町三丁目
大阪印刷団地
大阪菓子団地
小倉屋山本食品八尾工場
テニスコート
(財)八尾市文化財調査研究会
八尾市教育委員会
大阪府教育委員会
(財)大阪市文化財協会
(財)大阪文化財センター
八尾南遺跡調査会
長原遺跡調査会
0
(1:5000)
200m

第１図　調査地周辺図

表１　調査地一覧表（第１図に対応）

番号	遺跡名(略号)	調査機関	面積(㎡)	種別	主な時代	文　献
1	八尾南第１次(YS82-01)	八文研	2600	墓域 居住域	弥生時代～古墳時代 平安時代～鎌倉時代	駒沢敦　1984「３.八尾南遺跡（第１次調査）」『(財）八尾市文化財調査研究会報告５』
2	八尾南第２次(YS83-02)	八文研	2500	墓域 生産域	弥生時代～古墳時代 奈良時代～鎌倉時代	駒沢敦　1985「１.八尾南遺跡（第２次調査）」『(財）八尾市文化財調査研究会報告７』
3	八尾南第３次(YS84-03)	八文研	900	生産域･居住域 生産域	古墳時代 平安時代	原田昌則　他　1985「Ⅱ.八尾南遺跡（第３次調査）」『(財）八尾市文化財調査研究会報告６』
4	八尾南第４次(YS84-04)	八文研	630	居住域？	弥生時代～古墳時代	駒沢敦　1985「３.八尾南遺跡（第４次調査）」『(財）八尾市文化財調査研究会報告７』
5	八尾南第５次(YS86-05)	八文研	4500	生産域 居住域	弥生時代 古墳時代	駒沢敦　1988「７.八尾南遺跡（第５次調査）」『(財）八尾市文化財調査研究会報告16』
6	八尾南第６次(YS86-06)	八文研	120	生産域？	古墳時代～平安時代	西村公助　1987「４.八尾南遺跡（第６次調査）」『(財）八尾市文化財調査研究会報告14』
7	八尾南第７次(YS86-07)	八文研	3043	生産域	古墳時代 平安時代～鎌倉時代	西村公助　1987「Ⅵ.八尾南遺跡（第７次調査）」『(財）八尾市文化財調査研究会報告41』
8	八尾南第８次(YS87-08)	八文研	9961	墓域　居住域	弥生時代～古墳時代	原田昌則　1995「Ⅰ.八尾南遺跡（第８次調査）」『八尾南遺跡　(財）八尾市文化財調査研究会報告47』
9	八尾南第９次(YS87-09)	八文研	205	?	弥生時代	駒沢敦　1988「10･11.八尾南遺跡（第９次調査）」『(財）八尾市文化財調査研究会報告16』
10	八尾南第10次(YS87-10)	八文研	696	生産域･居住域 生産域	古墳時代 平安時代	成海佳子　1988「12.八尾南遺跡（第10次調査）」『(財）八尾市文化財調査研究会報告16』
11	八尾南第11次(YS88-11)	八文研	100	?	弥生時代～古墳時代	成海佳子　1988「21.八尾南遺跡（第11次調査）」『(財）八尾市文化財調査研究会報告25』
12	八尾南第12次(YS88-12)	八文研	860	墓域	古墳時代	原田昌則　1995「Ⅱ.八尾南遺跡（第12次調査）」『八尾南遺跡　(財）八尾市文化財調査研究会報告47』
13	八尾南第13次(YS88-13)	八文研	1800	生産域　居住域 生産域　河道	弥生時代　古墳時代 中世　近世	成海佳子　1988「23.八尾南遺跡（第13次調査）」『(財）八尾市文化財調査研究会報告25』
14	八尾南第14次(YS89-14)	八文研	100	居住域？ 生産域	古墳時代 鎌倉時代	高萩千秋　1989「５.八尾南遺跡（第14次調査）」『(財）八尾市文化財調査研究会報告28』
15	八尾南第15次(YS89-15)	八文研	846	居住域？ 河道	縄文時代？ 弥生時代	青木勘時　1989「６.八尾南遺跡（第15次調査）」『(財）八尾市文化財調査研究会報告28』
16	八尾南第16次(YS89-16)	八文研	97.38	－	－	高萩千秋　1989「７.八尾南遺跡（第16次調査）」『(財）八尾市文化財調査研究会報告28』
17	八尾南第17次(YS90-17)	八文研	436	居住域	弥生時代	原田昌則　1995「Ⅲ.八尾南遺跡（第17次調査）」『八尾南遺跡　(財）八尾市文化財調査研究会報告47』
18	八尾南第18次(YS92-18)	八文研	352	居住域	古墳時代	西村公助　1993「30.八尾南遺跡（第18次調査）」『平成４年度八尾市文化財調査研究会事業報告』
19	八尾南第19次(YS93-19)	八文研	700	? 居住域	弥生時代 古墳時代	西村公助　1994「Ⅷ.八尾南遺跡（第19次調査）」『(財）八尾市文化財調査研究会報告43』
20	八尾南第20次(YS94-20)	八文研	46	?	弥生時代 古墳時代	高萩千秋　1995「29.八尾南遺跡（第20次調査）」『平成６年度八尾市文化財調査研究会事業報告』
21	八尾南第21次(YS94-21)	八文研	708	居住域	弥生時代～古墳時代	坪田真一　1998「Ⅵ.八尾南遺跡（第21次調査）」『(財）八尾市文化財調査研究会報告61』
22	八尾南第22次(YS95-22)	八文研	340	?	弥生時代～古墳時代	高萩千秋　1996「Ⅶ.八尾南遺跡（第22次調査）」『(財）八尾市文化財調査研究会報告54』
23	八尾南第23次(YS95-23)	八文研	200	居住域 生産域	弥生時代 中世～近世	岡田清一　1999「Ⅳ.八尾南遺跡（第23次調査）」『(財）八尾市文化財調査研究会報告63』
24	八尾南第24次(YS95-24)	八文研	34	?	弥生時代 古墳時代	高萩千秋　1996「Ⅷ.八尾南遺跡（第24次調査）」『(財）八尾市文化財調査研究会報告54』
25	八尾南第25次(YS99-25)	八文研	294	居住域？	弥生時代　古墳時代 奈良時代以降	高萩千秋　2000「25.八尾南遺跡（第25次調査）」『平成11年度八尾市文化財調査研究会事業報告』
26	八尾南第26次(YS2004-26)	八文研	50	生産域 生産域	古墳時代 平安時代	高萩千秋　2005「Ⅲ.八尾南遺跡（YS20054-26）の調査」『八尾市立埋蔵文化財調査センター報告６』
27	八尾南第27次(YS2005-27)	八文研	1419	? 生産域	古墳時代 平安時代～近世	島田裕弘　2007『八尾南遺跡（第27次調査）』八尾市文化財調査研究会報告102
28	八尾南第28次(YS2006-28)	八文研	723	居住域 生産域　河道	奈良時代～平安時代 平安時代～中世	成海佳子　2007『八尾南遺跡（第28次調査）』八尾市文化財調査研究会報告114
29	八尾南第29次(YS2007-29)	八文研	24	古墳丘陵	古墳時代	成海佳子　2007『八尾南遺跡（第29次調査）』八尾市文化財調査研究会報告111
30	八尾南第30次(YS2008-30)	八文研	101	? 生産域	古墳時代 平安時代～近世	**本書掲載**
31	長原遺跡第１次(NG88-01)	八文研	8	居住域 生産域　河道	奈良時代～平安時代 近世	成海佳子　1989「24.長原遺跡（第１次調査）」『(財）八尾市文化財調査研究会報告25』
32	八尾南遺跡範囲確認調査	市教委	190	? 生産域	古墳時代 平安時代	米田敏幸　1981「八尾南遺跡範囲確認調査」『八尾南遺跡・東郷遺跡発掘調査概要　八尾市文化財調査報告６』
33	八尾南遺跡	市教委	－	－	－	米田敏幸　1983『八尾市埋蔵文化財発掘概要1980･1981年度　(財）八尾市文化財調査研究会報告２』
34	八尾南遺跡	市教委	約232	居住域？	弥生時代～古墳時代	米田敏幸　1985「４.八尾南遺跡の調査」『八尾市内遺跡昭和59年度発掘調査報告書　八尾市文化財調査報告11』
35	八尾南遺跡	八尾調査会	36000	? 生産域・墓域・居住域	旧石器・縄文・弥生・鎌倉 古墳時代	米田敏幸　他　1981『八尾南遺跡-大阪市高速電気軌道２号線建設に伴う発掘調査報告書-』八尾南遺跡調査会
36	長原遺跡	長原調査会	9000 調査区Ⅲ	墓域・居住域 生産域	古墳時代 奈良～室町時代	永島暉臣　他　1982『大阪市平野区長原遺跡発掘調査Ⅱ』長原遺跡調査会
37	八尾南遺跡	府教委	－	－	旧石器時代	福田英人　1989『八尾南遺跡-旧石器出土第３地点-』大阪府教育委員会
38	八尾南遺跡	府教委	3016	? 居住域	弥生時代？ 古墳時代	山田隆一・宮野淳一　1991『八尾南遺跡発掘調査概要・Ⅱ-大正川流域調節池築造に伴う-』大阪府教育委員会
39	長原遺跡(NG82-26)	大文協	－	河道 生産域	縄文時代 平安時代	1982『近畿財務局公務員宿舎に伴う長原遺跡発掘調査（NG82-26）略報』
40	長原遺跡(NG82-41)	大文協	2349	集落	古墳時代	大庭重信　他　1999『長原遺跡発掘調査報告Ⅶ』
41	長原遺跡(NG86-３)	大文協	2270	自然流路 生産域	旧石器時代～近世	寺井誠　他　2006『長原遺跡発掘調査報告ＸＶ』
42	長原遺跡(NG93-56)	大文協	650	集落	古墳時代	寺井誠　他　2006『長原遺跡発掘調査報告ＸＶ』
43	長原遺跡(NG00-11)	大文協	1008	? 生産域	縄文時代～飛鳥時代 平安時代～近世	辻美紀　他　2002「長原遺跡発掘調査報告Ⅸ」
44	八尾南遺跡	大文セ	12000	生産域・居住域 墓域	弥生時代 古墳時代	(財）大阪府文化財センター　2008『八尾南遺跡』(財）大阪府文化財センター調査報告書第172集

※調査機関　市教委：八尾市教育委員会　八文研：(財）八尾市文化財調査研究会　八尾調査会：八尾南遺跡調査会
府教委：大阪府教育委員会　大文セ：(財）大阪府文化財センター
大文協：(財）大阪市文化財協会　長原調査会：長原遺跡調査会

第２章　調査の方法と経過

今回の調査は市営住宅建替に伴って、当調査研究会が八尾南遺跡内で行った第30次調査である。

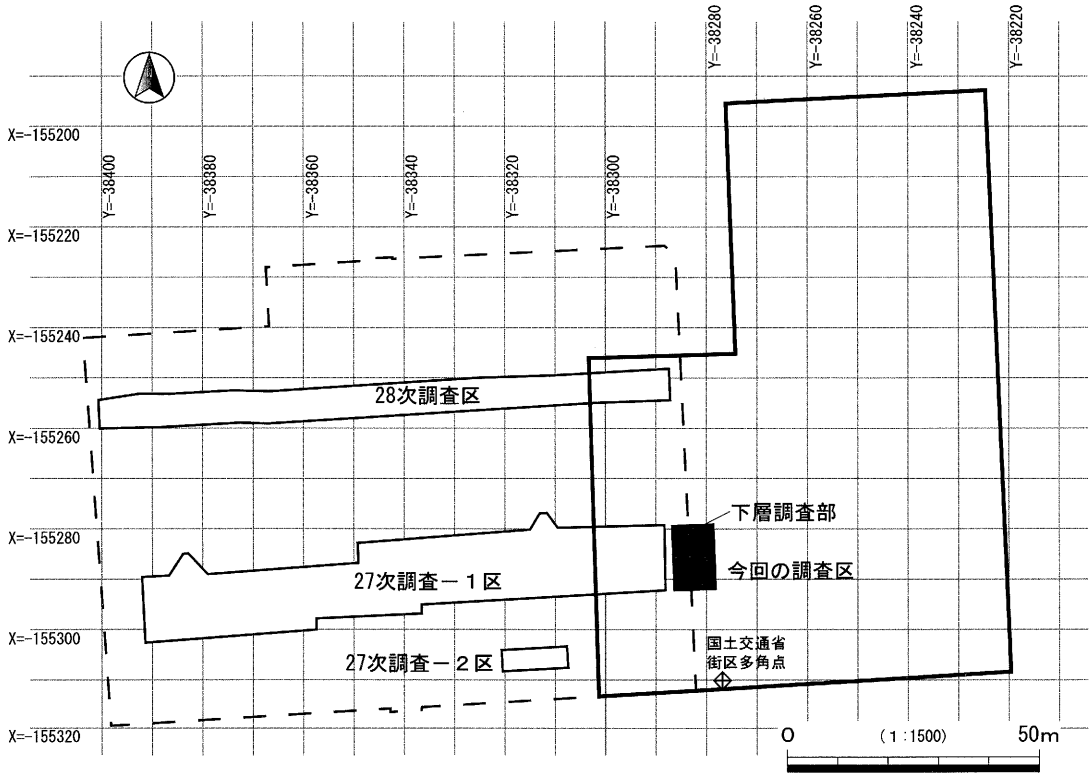
調査対象範囲は建物本体の基礎工事により遺跡が破壊される範囲で、調査面積は約101㎡である。当初、調査する深さは地表下1.5m前後までを予定していたが、下層部で遺構・遺物の存在が見込まれたため地表下約1.8m前後まで調査を行った。その結果、調査区北西部で河川と思われる遺構を検出したため、調査終了後に1.5m×1.0mのトレンチを設定し、下層確認の断面調査を行った。

掘削は重機による機械掘削と人力掘削を併用して行った。現地表下約0.7～1.0mまでは機械掘削、以下0.8mは人力掘削と一部機械掘削を併用して調査を行った。下層確認トレンチについては機械により地表下約2.7m前後までを掘削した。

地区割は調査地西側で当研究会が行った八尾南遺跡第27次調査時に使用した地区割を東側に延長する方法を取った。

調査面は機械掘削終了後に人力によって検出した面を「第１面」と呼称し、以下、上から順に調査面番号を付した。

遺構名は、**遺構略号＋３桁数字**で表し、数字の第一桁を面、後の二桁を遺構番号とした。



第２図　調査区位置図

第３章　調査概要

第１節　基本層序

現地表下0.7～1.8m前後まで平面的に調査を行い、下層確認による断面調査を現地表下2.7m前後まで行った。東壁・北壁付近では水道管・ガス管などが設置されて大きく撹乱を受けていたため、主に南壁・西壁で断面観察を行い、基本の層位として12層を確認できた。基本層名は八尾南第27次調査を参考にし、同じ層の中で撹拌・土壌化層と自然堆積層に分けられる場合、番号の後ろに撹拌・土壌化層は「ａ」、自然堆積層は「ｂ」のアルファベットを付加した。以下、調査区における層位と、調査で確認できた遺構面の関係について記述する。

第０層　八尾空港及び旧市営住宅建設・解体に伴う盛土と撹乱層。層厚は約0.4～1.0mを測る。

第１層　旧耕土層。オリーブ黒色の細粒砂～粗粒砂混じりのシルトで層厚は約0.1～0.2mを測る。

第２層　近世以降の耕作土層。暗青灰～灰色の細粒砂～粗粒砂混じりのシルトで、やや粘性が強い。一部で２層に細分でき、下層はさらに粘性が強くなる。層厚は約0.1～0.3mを測る。

第３層　中世～近世の耕作土層。暗オリーブ灰色の細粒砂～細礫混じりのシルトで、細礫を多く含む。層厚は0.2～0.3mを測る。当該層までを重機で掘削した。

第４層　中世の水田作土層。灰～暗オリーブ灰色の細粒砂～粗粒砂が混じる粘土質シルトの層で、層厚は約0.1～0.3mを測る。２層に細分でき、下層では、下面で踏み込みが認められ足跡などが検出されたほか、北壁の一部では、洪水などによる氾濫起源の自然堆積層（第４ｂ層）を確認した。当層上面で**第１面**を検出した。

第５層　中世の水田作土層。暗オリーブ灰色の細粒砂混じりのシルトで、淘汰の悪い撹拌層である。層厚約0.1～0.3mを測る。

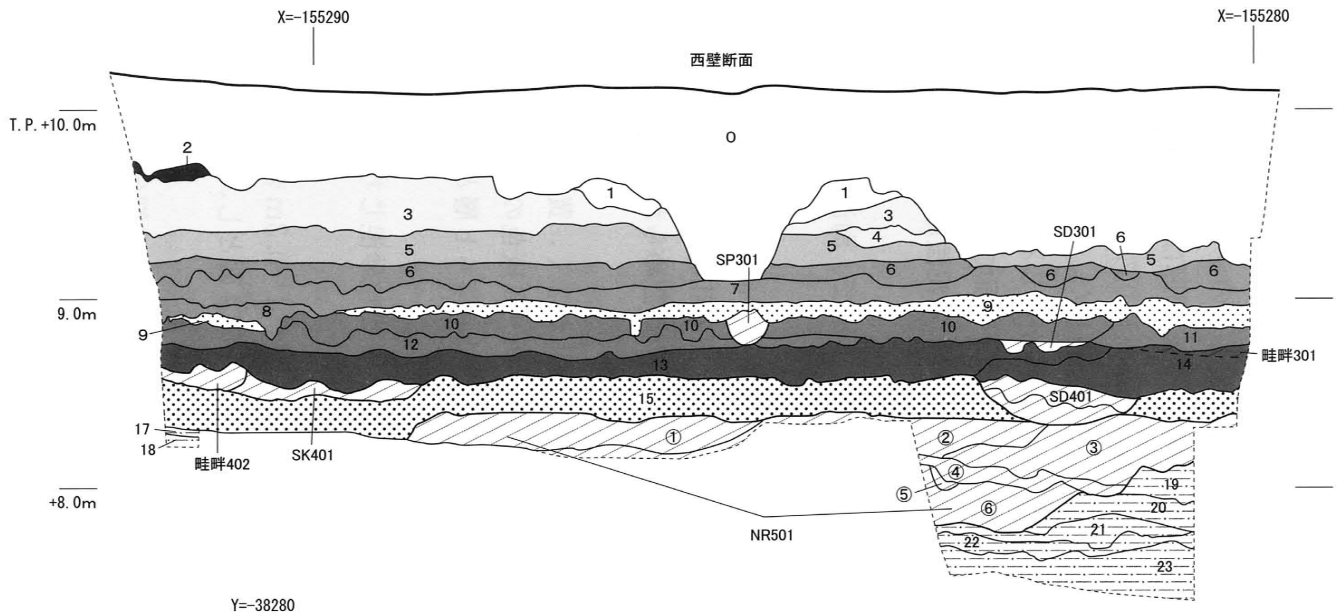
第６層　平安時代～中世の水田作土層である第６ａ層と自然堆積層である第６ｂ層に分かれる。第６ａ層は暗オリーブ灰色の細粒砂混じりの粘土で、上面で畦畔を検出した。第６ｂ層は灰黄色の細粒砂～粗粒砂で、一部では水平方向のラミナが認められる。当層上面で**第２面**を検出した。

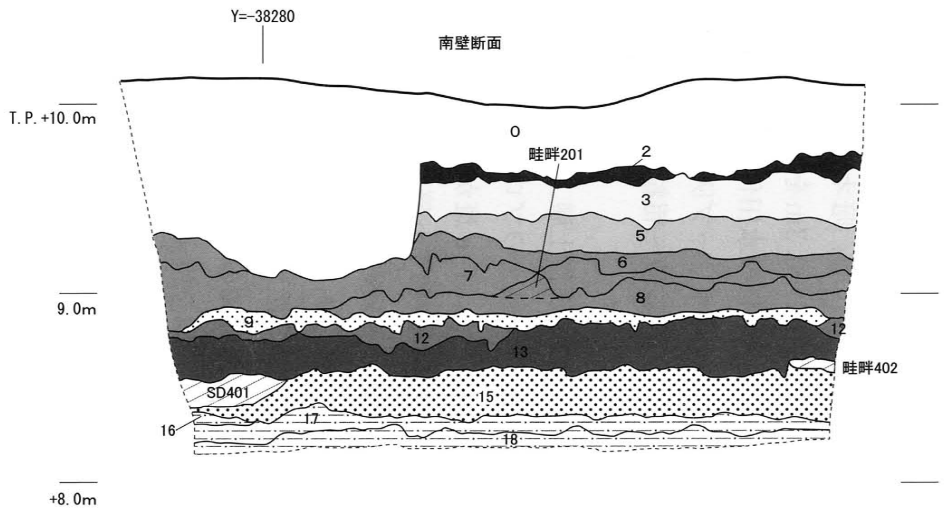
第７層　平安時代の水田作土層。３層に細分でき、上層は層の淘汰が悪く、黄褐色の砂混じりのシルトに砂と粘土のブロックが混じる。下層はオリーブ灰～黄灰色の粘性が強い砂混じりのシルトで、Ｆｅ斑が顕著にみられた。北壁の一部では、第４ｂ層と第６ｂ層と同様の自然堆積層（第７ｂ層）を確認した。

第８層　飛鳥時代～平安時代の耕作土層。暗灰黄～灰色の細粒砂～粗粒砂混じりのシルトで、均質な撹拌層である。当層上面で**第３面**を検出した。

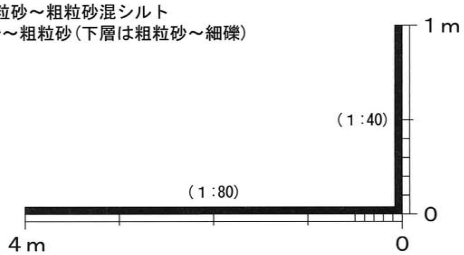
第９層　古墳時代の自然堆積層。灰色の細粒砂～粗粒砂で、層厚約0.1～0.3mを測る。洪水などによる氾濫起源の自然堆積層と考えられるが、当層上面を**第４面**とし、土坑・溝・畦・ピットなどの遺構を検出した。

第10層　土壌化層であるが、遺物を含まないため時期は不明である。３層に細分でき、暗灰～青灰～灰色の微粒砂～細粒砂混じりのシルトで、いずれも粘性が強い。当層上面で**第５面**を検出した。





0：盛土・客土
1：暗灰黄色(2.5Y4/2)細粒砂～中粒砂混シルト
2：オリーブ黒色(10Y3/1)細粒砂～粗粒砂混シルト　}第１層
3：暗青灰色(5BG4/1)細粒砂～粗粒砂混シルト
4：灰色(10Y4/1)細粒砂混粘土質シルト　}第２層
5：暗オリーブ灰色(5GY4/1)細粒砂～細礫混シルト　}第３層
6：灰色(5Y4/1) 細粒砂～粗粒砂混粘土質シルト(Fe含む)(第１面)　}第４層
7：暗オリーブ灰色(2.5GY4/1)細粒砂混粘土質シルト(Fe,細礫少量含む)　}第５層
8：暗オリーブ灰色(7.5GY4/1)細粒砂混粘土　(第２面)　}第6a層
9：灰黄色(2.5Y6/2)細粒砂～粗粒砂(Fe含む)　}第6b層
10：黄褐色(2.5Y5/3)細粒砂～粗粒砂混シルトに砂・粘土ブロック入る(Fe含む)
11：オリーブ灰色(5Y5/1)細粒砂混シルト
12：黄灰色(2.5Y4/1) 細粒砂～粗粒砂混粘土質シルト(Fe含む)　}第７層
13：灰色(5Y5/1) 細粒砂～粗粒砂混シルト(植物遺体を少量含む)(第３面)
14：暗灰黄色(2.5Y4/2)細粒砂～粗粒砂混シルト　}第８層
15：灰色(5Y5/1)細粒砂～粗粒砂(第４面)　－第９層
16：暗灰色(N3/)微粒砂～細粒砂混シルト
17：青灰色(10BG5/1)細粒砂～中粒砂混粘土質シルト(Fe含む)(第５面)　}第10層
18：灰色(N4/)細粒砂～中粒砂混粘土質シルト
19：灰色(N4/)細粒砂～粗粒砂混粘土質シルト
20：オリーブ黒色(10Y3/1)細粒砂～粗粒砂混粘土質シルト　}第11a層
21：灰色(7.5Y4/1)細粒砂～粗粒砂混粘土質シルト
22：暗緑灰色(5G5/1)細粒砂～粗粒砂　－第11b層
23：暗灰色(N3/)粘土　－第12層
ＮＲ501
①：灰色(7.5Y5/1)細粒砂～粗粒砂に一部暗灰色(N3/)粘土質シルト薄層が入る
②：緑灰色(7.5GY5/1)細粒砂～粗粒砂混粘土質シルト
③：灰色(10Y6/1)細粒砂～粗粒砂
④：オリーブ黒色(10Y3/1)細粒砂～粗粒砂混粘土質シルト
⑤：暗緑灰色(10G4/1)細粒砂～粗粒砂混シルト
⑥：灰色(7.5Y5/1)細粒砂～粗粒砂(下層は粗粒砂～細礫)



第３図　調査区断面図

第11層　土壌化層の第11ａ層と、自然堆積層の第11ｂ層に分かれる。第11ａ層は３層に細分でき、いずれも灰色～オリーブ黒色の細粒砂～粗粒砂混じりのシルトで、粘性が強い。第11ｂ層は灰色の細粒砂～粗粒砂で、ラミナは認められないが、洪水などによる氾濫起源の自然堆積と考えられる。

第12層　土壌化層。暗灰色の粘土で、植物遺体を少量含む。

第２節　検出遺構と出土遺物

第１面（近世～近代）

第１面は、機械掘削終了後、第３層を除去し検出した面で、検出高は約T.P.＋9.2～9.3mである。第１面に帰属する遺構は、調査の都合上、第４層を除去した第２面と同一面で検出した。

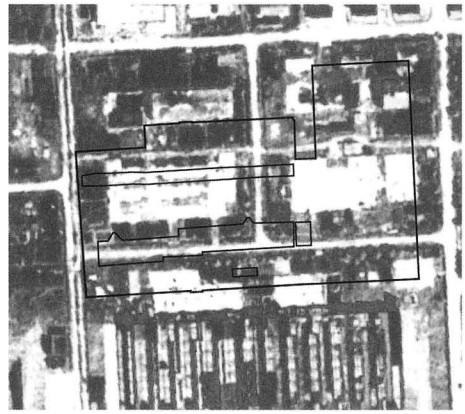
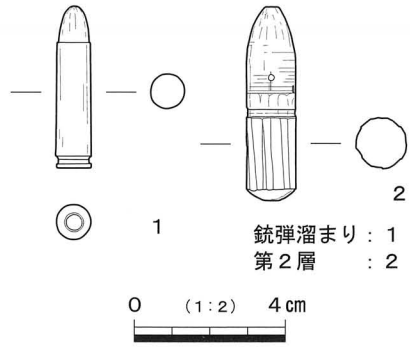


写真２　昭和23年米軍撮影空中写真

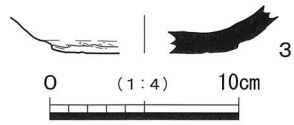
調査区中央で東西に伸びる近代以降に構築された排水溝を検出した。遺構東側から中央までの間は、周囲をコンクリートで充填された陶器製の土管が設置されていたが、遺構西側では掘形のみで陶器製の管等は検出されなかった。掘形の埋土は粗いブロック土で、コンクリートの下面にも同様のブロック土が入っていた。埋土からはガラス片や陶器・陶磁器の細片が少量含まれていたが、遺構中央のコンクリート下層のブロック土から、**銃弾溜まり**を検出し、同種類の銃弾が未使用の状態で29個まとまって出土した（１）。この他にも、第２層中から弾頭１点（２）が出土している。１は**銃弾溜まり**から出土した銃弾のうちの１点で完形である。29個のうち数点の底面に「45　LC」と印字されていたことから、アメリカのコルト社製の銃弾と考えられる。同種の銃弾はアメリカ軍でも使用されていたことから、戦後、八尾空港周辺に駐屯していた進駐軍関連の遺物と考えられる。２は銃弾の弾頭部分で、大型の銃弾であったと思われるが詳細は不明である。下半部は右下りの弾痕、衝撃を受けてできたと思われる平坦な面をもち、使用された際の痕跡が認められる。耕作土層から出土していることから、使用された際、地中に潜った可能性が高い。



第４図　第１面出土遺物実測図

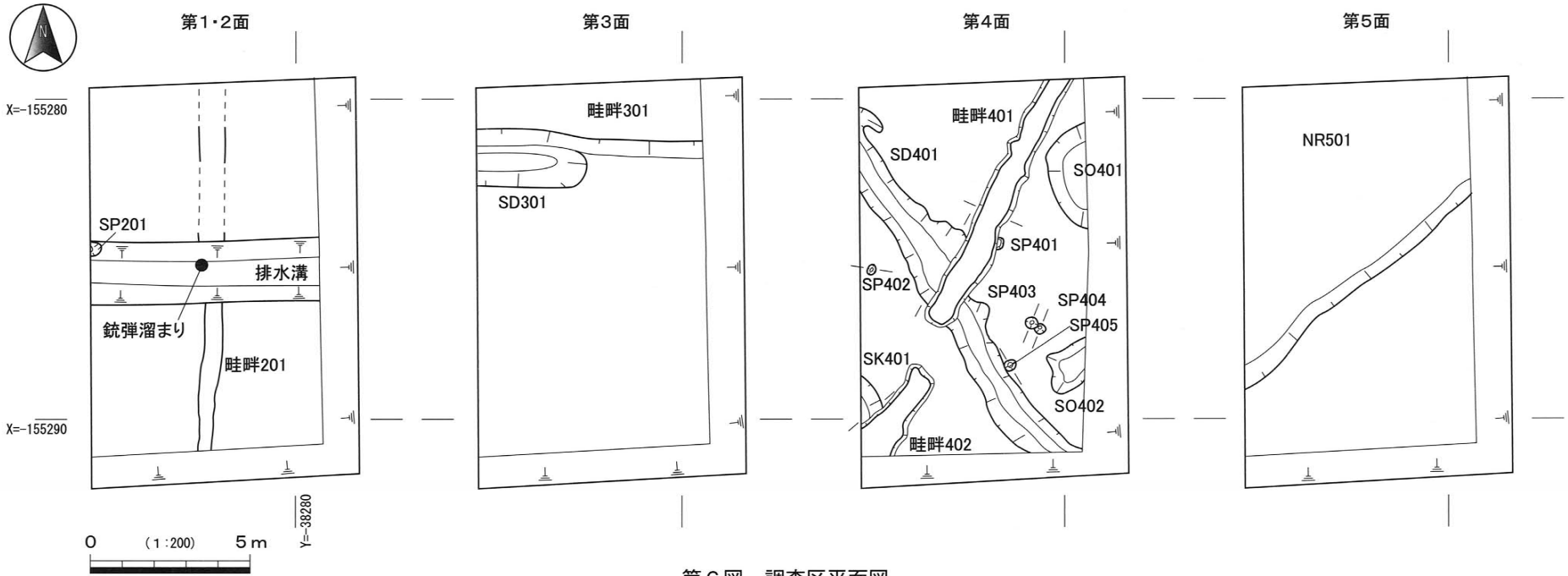
第２面（平安時代～中世）

第２面は、第５層を除去して検出した面で、検出高は約T.P.＋8.9～9.1mである。第６層上面に帰属する畦畔１基、ピット１基、調査区南半で多数の足跡を検出した。

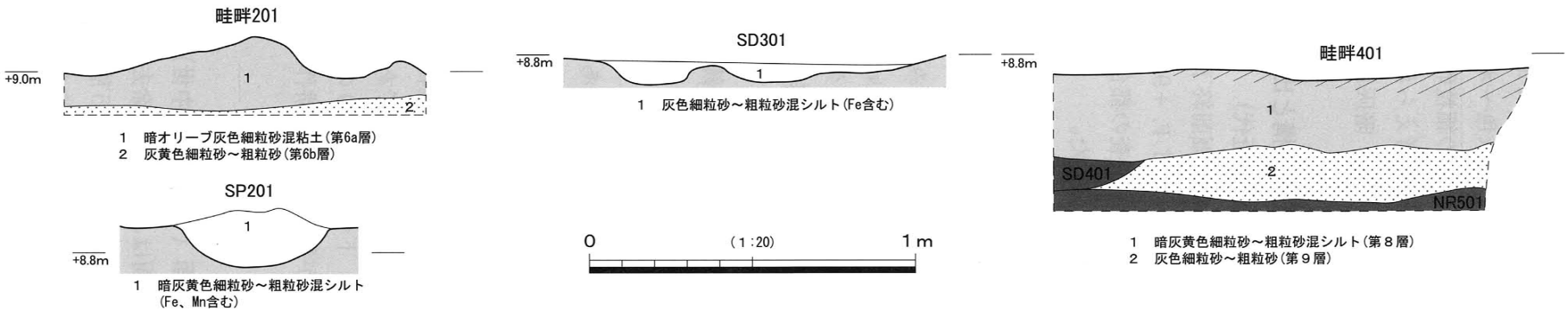


第５図　第７層出土遺物実測図

第６層・第７層中からは、土師器、須恵器杯身・甕、瓦器椀な



第６図　調査区平面図



第７図　第２面・第３面遺構断面

どの細片が少量出土しており、そのうち１点を図化した。３は須恵器鉢の底部片である。調整は内面･外面に回転ナデが施されるが、底部は平底で、底面は未調整である。８世紀に比定できる。

畦畔201

南北に伸びる畦畔で、第６層を盛り上げて造成されている。南側では幅はやや狭く、高く盛り上げられているが、北側では幅が広くなり、遺構面との高低差は低くなる。

ＳＰ201

調査区北西で検出された。第７層上面で検出された。埋土は砂混じりのシルトで、遺物は含まれなかった。耕作関連の遺構と考えられる。

第３面（飛鳥～平安時代）

第３面は、第７層を除去して検出した面で、検出高は約T.P.＋8.7～8.9mである。第８層上面でピット１基、溝１基、畦畔１基を検出した。

畦畔301

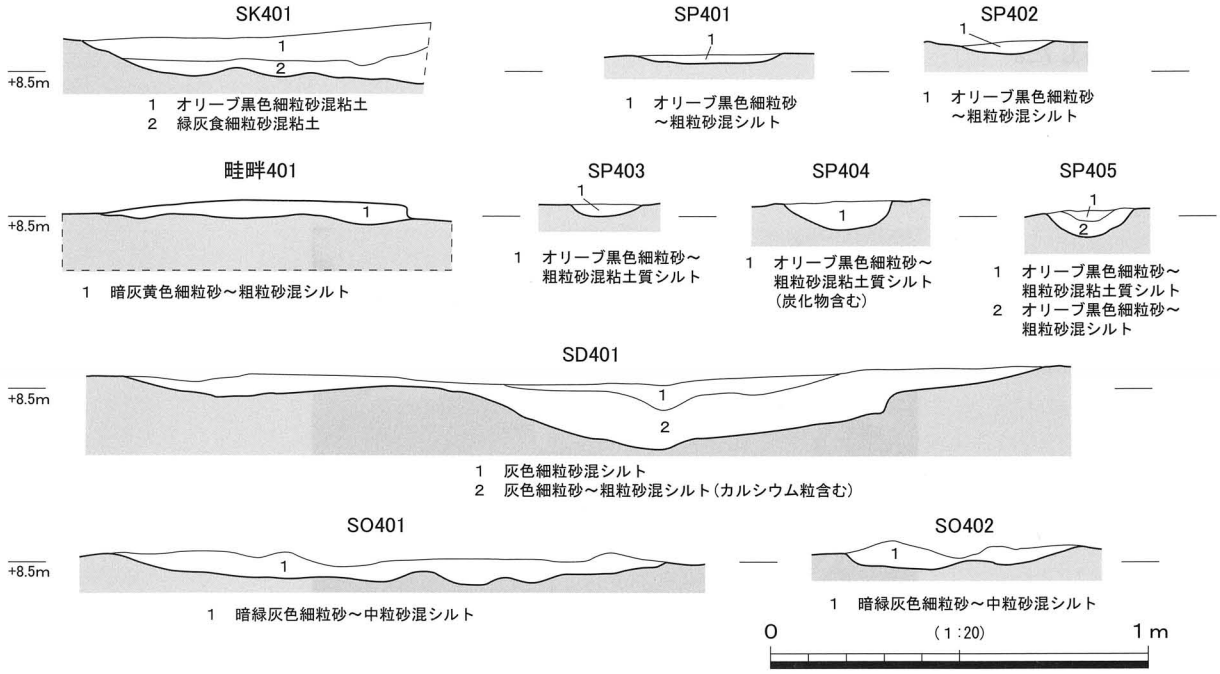
調査区北端で検出された遺構で､第８層を盛り上げて造成されている。調査区外へ伸びるため、全形は不明である。埋土は粘性のやや強い砂混じりのシルトである。

ＳＤ301

畦畔301の南側に並行して接する。埋土は第７層と似ており、やや粘性の強い砂混じりのシルトである。下面では踏み込みと考えられる凹凸が検出された。耕作関連の溝と考えられる。

第４面（古墳時代後期）

第４面は第８層を除去して検出した面で、検出高はT.P.+8.8～8.9mである。第９層上面で、畦畔１基、土坑１基、溝１基、ピット５基、落ち込み２基を検出した。



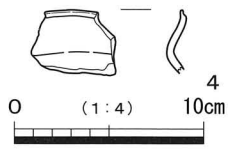
第８図　第４面遺構断面図

畦畔401・402

調査区北東隅から南西隅に伸びる畦畔である。これらの畦畔は一連のものと思われるが中央よりやや南側の地点で途切れており、水口と考えられる。埋土は暗灰黄色の細粒砂～粗粒砂が多く混じるシルトである。

ＳＫ401

調査区南西隅で検出された。畦畔402に切られており、調査区外へ伸びているため全形は不明である。埋土はオリーブ黒色の微粒砂～細粒砂が混じる粘土で、土師器細片が出土し、そのうち１点を図化した。４は土師器甕の口縁部である。口縁端部は上方に摘み上げあられ、端面は外方に向いて中央が凹線状にくぼむ。頸部屈曲部は丸みをもつ。５世紀後半に比定できる。



第９図　ＳＫ401 出土遺物実測図

ＳＤ401

調査区北西から南東へ伸びる溝で、畦畔401に切られている。埋土は灰色の細粒砂を少量含む粘土で、下層では炭酸鉄が含まれる。

ＳＰ401～405

調査区中央付近で検出された。いずれも埋土は灰色～オリーブ黒色の砂混じりの粘土質シルトで、遺物は検出されなかったが、ＳＰ404では少量の炭化物が含まれた。

ＳＯ401・402

調査区東側で検出された。埋土は青灰色の細粒砂～中粒砂混じりの粘土質シルトで、ＳＯ401からは土師器細片が１点出土している。いずれも調査区外へ伸びるため全形は不明である。

第５面（古墳時代）

第５面は第９層を除去して検出した面で、検出高はT.P.+8.3～8.4mである。第10層上面で、河川を検出した。

ＮＲ501

調査区北東から南西にかけて検出された。規模や全形は調査区外へ広がるため不明である。埋土は砂層と粘土～シルト層が互層状に堆積していた。

写真３　作業風景

第４章　まとめ

調査の結果、古墳時代から近代に至るまでの５面の遺構面を検出し、古墳時代～近代にいたるまで生産域として利用されていたことが判明した。遺物はコンテナ１箱分が出土した。

第１～３面は、飛鳥時代～近代の耕作面で、度々洪水災害による耕作面の廃絶とその後耕作面の復旧を繰り返していたことがうかがえる。調査地周辺は古代から、飛行場が建設される近代に至るまで条里制が残っていたことが既往の調査から判明しているが、今回の調査地でも条里制に則った遺構と考えられるものとして、第２面で南北方向にのびる**畦畔201**を検出した。

第４面では、古墳時代後期の畦畔、土坑、溝、ピット、落ち込みなどの遺構を検出している。これらの遺構は洪水によって堆積したと考えられる砂層の上に構築されており、ピット、溝、土坑等の遺構が形成された後、**畦畔401・402**が作られている。このことから、第４面では、洪水後でも土地の利用は行われているが、すぐには生産域として利用されず、溝等の遺構の廃絶後、水田が造成され、その後第３面以降の耕作面が構築されたと考えられる。**畦畔401・402**は北東から南西方向に伸びる畦畔であるが、同様の方向の水田跡が調査地北東で行われた八尾南第７次調査で検出されている。これらは南西から北東へやや低くなっている地形を利用したものと考えられるが、飛鳥～平安時代の条里制導入以後は、これに則った耕作地が形成されたようである。

第５面では、遺物が出土しなかったため明確な時期は不明であるが、古墳時代以前の河川（**ＮＲ501**）を検出した。第27次調査で行われた下層確認の際に検出された落ち込み（**128落ち込み**）に続く可能性がある。

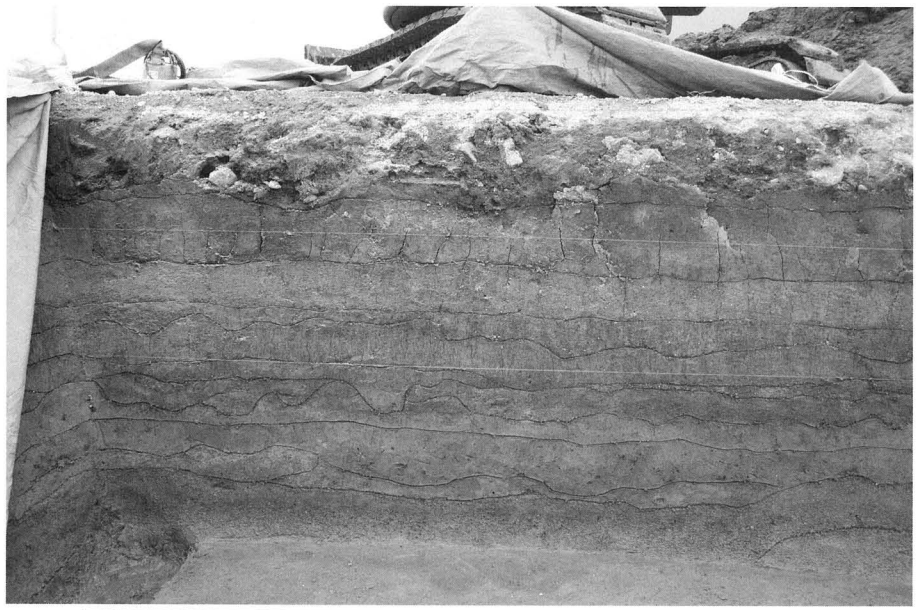
このほか、調査地周辺は大正飛行場・阪神飛行場（現八尾空港）跡地で、戦時中は格納庫などの建物群が建っていたことが知られているが、今回の調査では、第１面でこれらに関連すると考えられる弾頭が１点と、銃弾が29点まとまって出土した**銃弾溜まり**を検出した。**銃弾溜まり**を検出した排水溝は、航空写真からは確認できないが格納庫などの建物群の方向と一致しており、これらに伴って造られたものと考えられる。まとまって出土した銃弾はアメリカ製であることから、終戦後飛行場を接収したアメリカ軍が遺棄もしくは廃棄したものと考えられる。その後、排水溝には東半分のみ周囲にコンクリートを充填した陶器製土管が設置されるが、これは、アメリカ軍からの飛行場返還後、市営大正住宅が造営される際に調査地東半分に建設された区画道路付近まで排水溝を整備し、利用したと思われる。

参考文献

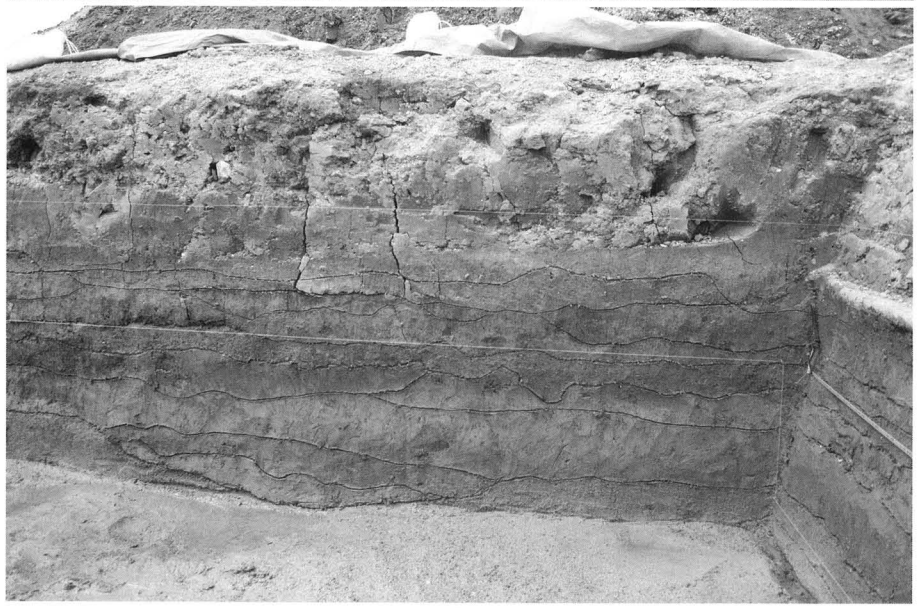
・田辺昭三　1981『須恵器大成』角川書店
・京嶋覚　1993「第3章第2節　古墳時代後期の土器の変遷」『長原・瓜破遺跡発掘調査報告Ⅴ』財団法人大阪市文化財協会
・西村公助　1993「Ⅳ八尾南遺跡（第７次調査）」『八尾市文化財発掘調査報告Ⅲ』（財）八尾市文化財調査研究会報告41　八尾市文化財調査研究会
・島田裕弘　2007『八尾南遺跡（第27次調査）』（財）八尾市文化財調査研究会報告102　八尾市文化財調査研究会

図　　版

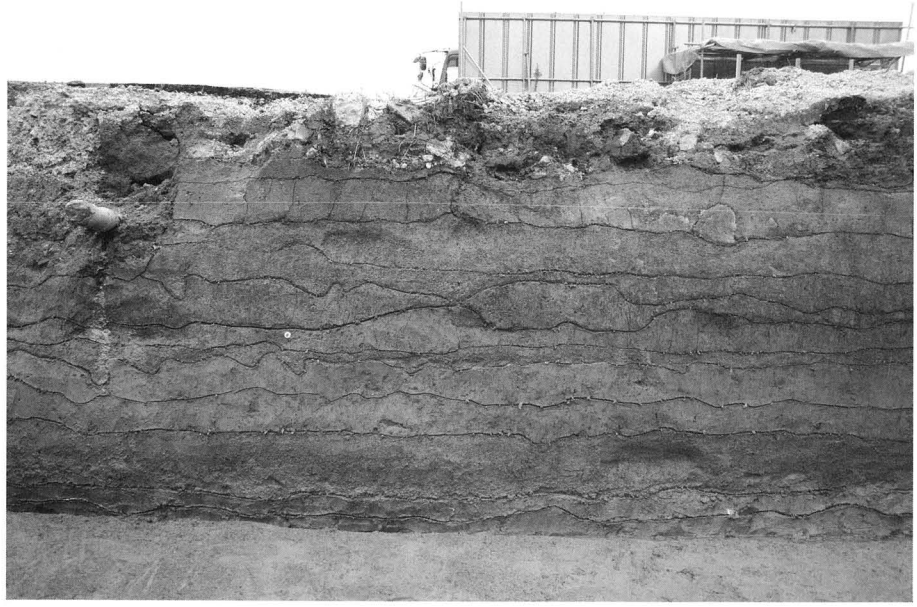
図版一



調査区西壁断面南側
（東から）

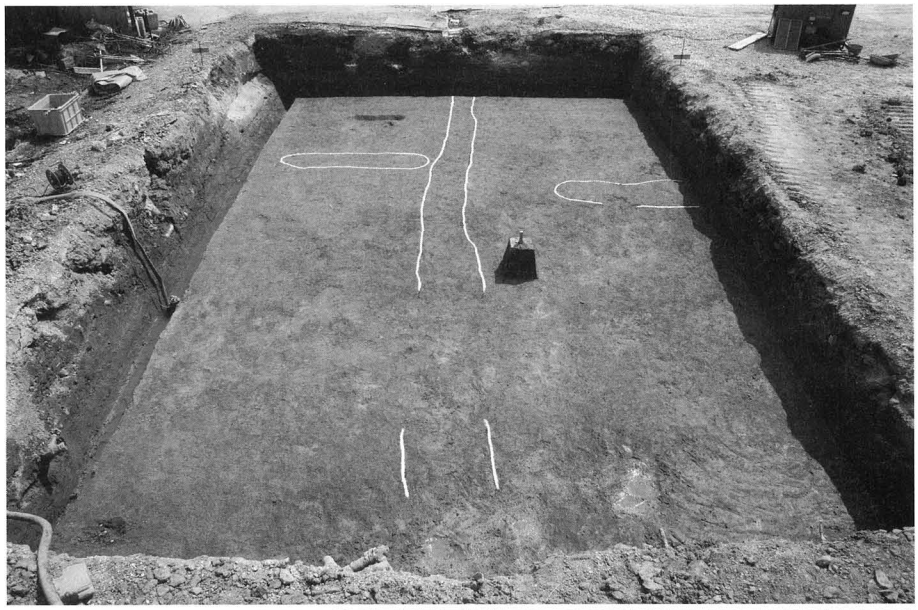


調査区西壁断面北側
（東から）

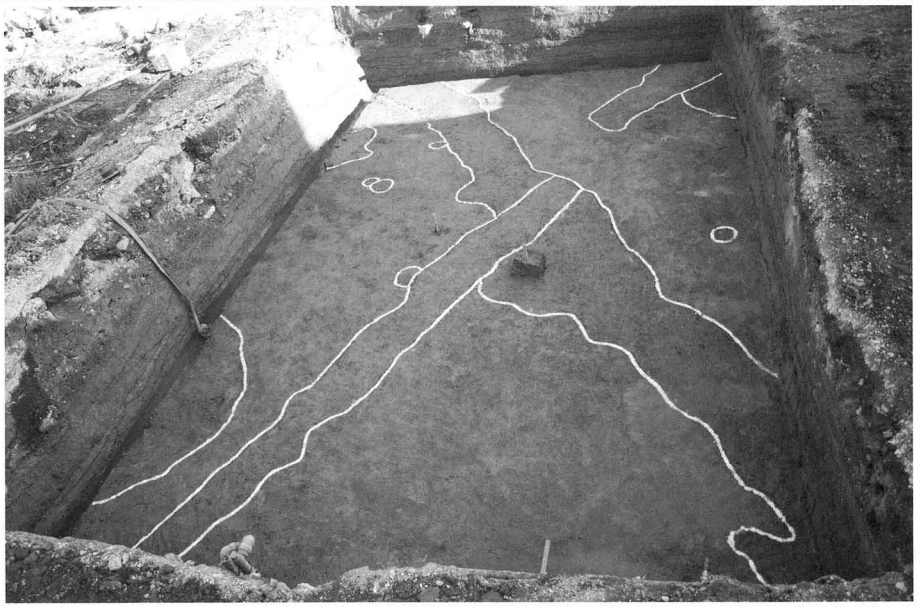


調査区南壁断面
（北から）

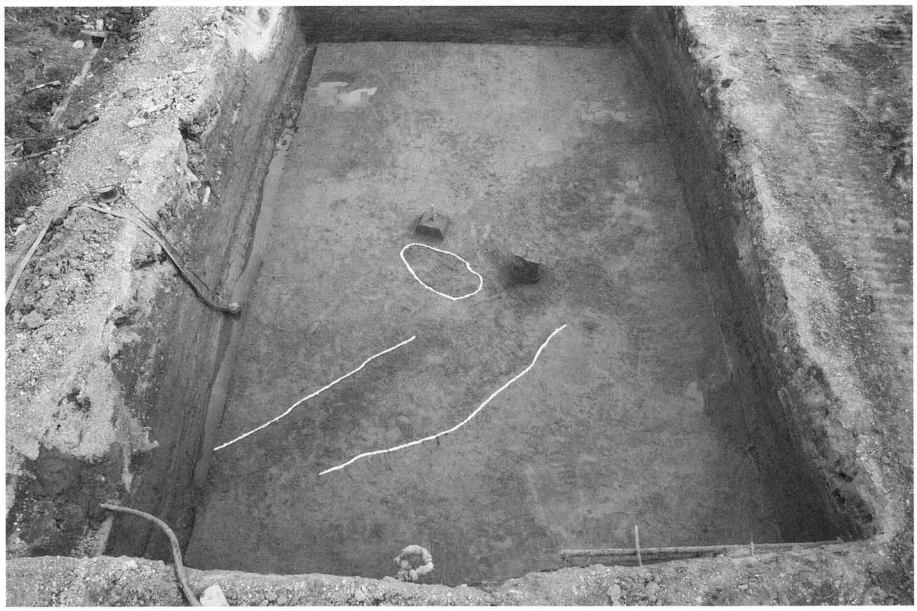
図版二



第１・２面全景
（北から）

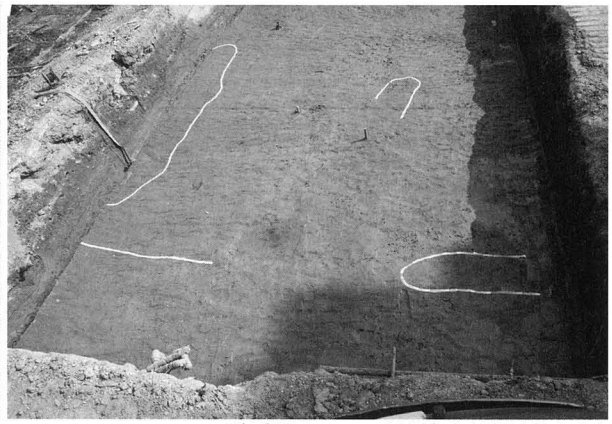


第４面全景
（北から）

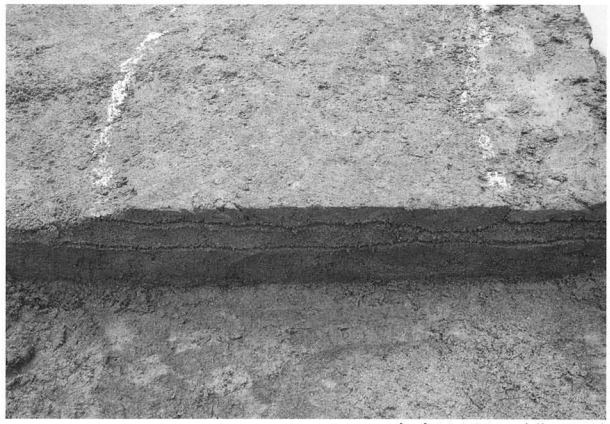


第５面全景
（北から）

銃弾溜まり（西から）



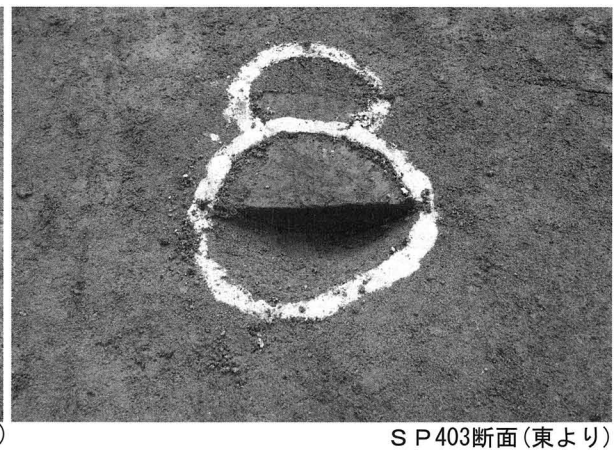
畦畔301・ＳＤ301検出状況（北から）



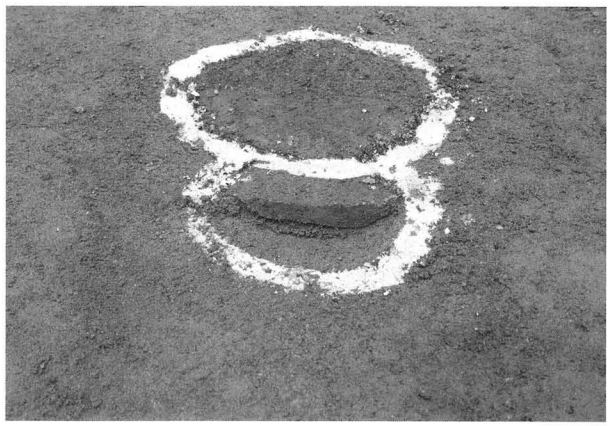
畦畔401断面（北より）

ＳＫ401断面（北より）

ＳＤ401断面（北より）



ＳＰ403断面（東より）

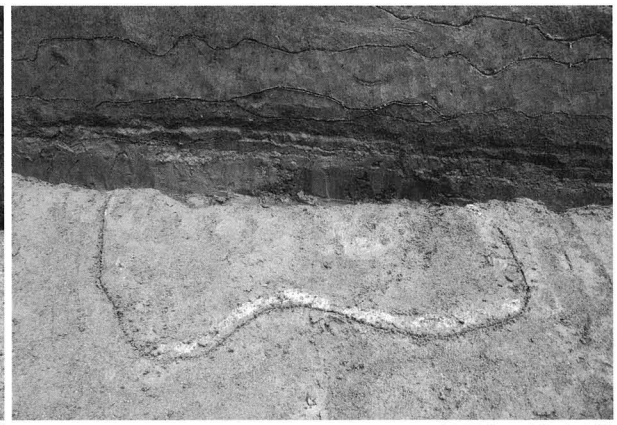


ＳＰ404断面（西より）

ＳＰ405断面（東より）

図版四

ＳＯ401断面（東より）



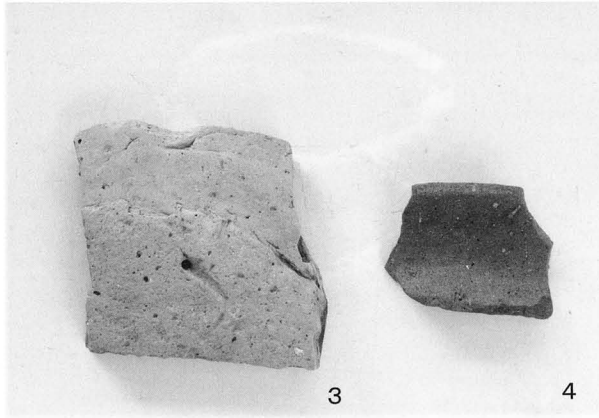
ＳＯ402断面（東より）

ＮＲ501断面（下層確認トレンチ東より）

第１面出土銃弾

1

2



3　4

第２・４面出土遺物

報　告　書　抄　録

ふりがな	ざいだんほうじん　やおしぶんかざいちょうさけんきゅうかいほうこく121
書名	財団法人　八尾市文化財調査研究会報告121
副書名	八尾南遺跡　第30次調査
巻次	
シリーズ名	財団法人　八尾市文化財調査研究会報告
シリーズ番号	121
編著者名	米井友美
編集機関	財団法人　八尾市文化財調査研究会
所在地	〒581－0821　大阪府八尾市幸町四丁目58－2　TEL・FAX　072－994－4700
発行年月日	西暦2008年12月26日

所収遺跡（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積（㎡）	調査原因
		市町村	遺跡番号					
八尾南遺跡（やおみなみいせき） （第30次調査）	大阪府八尾市西木の本四丁目地内（おおさかふ やおしにしき もとよんちょうめ ちない）	27212	67	34度 35分 58秒	135度 34分 57秒	20080908 ～ 20080922	101	市営住宅建替

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
八尾南遺跡 （第30次調査）	集落 生産域	古墳時代	河川 土坑・溝・ピット・落込 畦畔	土師器・須恵器	
	生産域	飛鳥時代～近世	溝・ピット 畦畔	土師器・須恵器 瓦器椀	
	その他	近代～現代	溝	鉄弾	

要約	古墳時代中期～後期の土坑、ピット等の集落に関連する遺構と、古墳時代後期～近世にかけての河川、畦畔、溝等の生産遺構を検出した。生産遺構に関しては、古墳時代後期では地形に沿って、それ以後は条里制に則って造成されており、既往調査と同様の成果を得ることができた。また、昭和初期に設営された旧阪神飛行場に関連する遺物として銃弾が出土した。

財団法人　八尾市文化財調査研究会報告121

八　尾　南　遺　跡

第30次調査

発　行　　2008年12月
編　集　　財団法人　八尾市文化財調査研究会
〒581－0821
大阪府八尾市幸町四丁目58番地の２
TEL・FAX 072－994－4700

印　刷　　㈱近畿印刷センター
表　紙　　レザック66　　＜175Kg＞
本　文　　ニューエイジ　＜ 70Kg＞
図　版　　ニューエイジ　＜ 70Kg＞

八尾南遺跡　第30次調査

財団法人　八尾市文化財調査研究会報告121

二〇〇八年

財団法人　八尾市文化財調査研究会